

どんなときも一人の人間として

その先生が担任になったクラスには、2つの決まり事がありました。

1つは、ホームルームの時間になると教室の机をロの字に並べ替え、「話合い」を始めることです。他のクラスが楽しそうにビーチボールをしながら、そのクラスは必ず「話合い」でした。そうすると、生徒たちは『ホームルームの改善』を議題にします。驚くほど真剣に話合いが行われ、最後にレクリエーションの実施を決議し、その要求を担任に突きつけるのです。しかし、担任は絶対に譲りません。そして逆に、生徒たちは話合いで問題解決を図ることの大切さを諭されてしまうのです。やがて、生徒たちはクラスメートの考え方に触れたり、本気で議論したりすることに充実感を感じながら、いつのまにか自然と机をロの字に並べ替えるようになってしまいました。

もう1つの決まり事は、個人面接が行われるとき、一日に一人、1時間以上の面談と決められていたことです。しかも、担任は勉強に関する質問を全くしないのです。生徒は長い面談時間をもて余し、ついつい自分の趣味や飼っているペットの話始めてしまいます。この先生ほど、成績以外の生徒のことをよく知っていた教師に出会ったことはありません。

自分を飾るところが一切なく、よく笑い、よく怒り、生徒にも「ありがとう」という言葉をよく遣う先生でした。クラスの生徒たちは皆、先生が自分に対し、どんなときも一人の人間として接してくれることをよく知っていました。生徒の目線で見聞きし、生徒を大事にするその先生は、私の恩師であり、目標とする先輩であり、教師人生の原点となった先生です。